

JR釧網線、花咲線を守るために

JR北海道は16(平成28)年11月に、釧網線、花咲線を含む10路線13線区について、JR北海道単独では維持することが困難な線区として発表しました。これを受け、釧路市をはじめ沿線地域では、路線の維持活性化に向けた協議・取り組みを進めています。

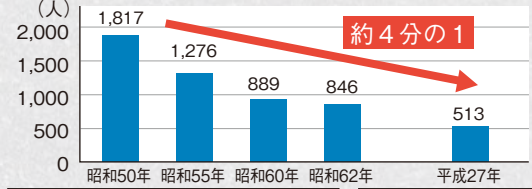
●維持困難な線区

JR北海道は、将来にわたり持続可能な形で安全最優先の鉄道事業を運営するため、安全対策に必要な費用を優先的に確保すべく、輸送密度2000人未満の区間の見直しを行おうとしています(輸送密度：1日1キロメートル当たりの乗車人数)。

●JR釧網線、花咲線の現状

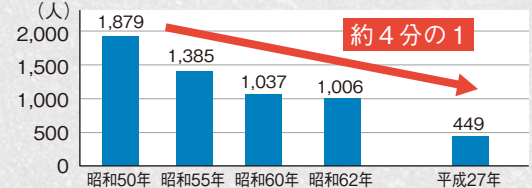
両路線とも利用者が減少し、また、施設の老朽化等により左表のような現状となっています。

●釧網線の輸送密度の推移(東釧路～網走間)



収支(平成27年度決算)
今後20年間の費用(土木構造物の修繕等、車両更新) 約16億円の赤字
土木構造物 33億円
車両更新 16億円

●花咲線の輸送密度の推移(釧路～根室間)



収支(平成27年度決算)
今後20年間の費用(土木構造物の修繕等、車両更新) 約11億円の赤字
土木構造物 30億円
車両更新 12億円

JR釧網線、花咲線の維持・活性化に向けて
釧網線、花咲線は、通学や通勤、通院の手段として、また観光利用など私たちの生活や産業を支える重要な基盤です。この路線を守ることは、国や北海道の問題としても大変重要です。この地域が広域的に連携して鉄道の利活用などを進めるとともに、地元として釧網線、花咲線を少しでも多く利用するなど、維持活性化に向けた気運を高めていきたいと思います。



市長から皆さんにお伝えしたい

大切な公共交通を守り育てるために

人口減少や少子高齢化、モータリゼーション(車社会化)の進行などを背景に、公共交通(バスや鉄道)を取り巻く環境は厳しさを増しています。公共交通の利用者が減少すると、運行路線や便数が減少し、さらなる利用者低迷の悪循環となる可能性がある他、車を自由に利用できない高齢者の方などにとっては、移動しにくく暮らしにくいまちなこととなる懸念されます。

公共交通は、私たちの移動手段の確保はもとより、コンパクトなまちづくりの実現、中心市街地のにぎわい創出、さらには健康増進、自家用車による交通事故防止の観点など、幅広い役割を担っています。

公共交通を持続可能なものとしていくためには、「みんなで公共交

通を守り育てる」意識を持ち、車に頼りすぎることなく「かしこく公共交通を利用していく」ことが何よりも重要です。

現在、鉄道路線の釧網線、花咲線については、沿線地域が知恵を出し合いながら、その特性を生かした利活用策などを検討しています。

また、市内公共交通の中心となるバスについては、運行の効率化と利便性の向上を目指したバス路線の再編計画や、利用促進に向けた取り組みを、多様な主体と連携して進めているところです。

住みやすく、活力に満ちた地域社会に不可欠な公共交通の維持・活性化のため、市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

釧路市長 蝦名 大也